



## 理事長 岡本 浩幸

### ごあいさつ

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年も地域の皆さまに当金庫をより知っていただくため、ディスクロージャー誌を作成いたしました。ご高覧のうえ当金庫へのご理解を一層深めていただければと存じます。

令和4年度の国内経済を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らぐもとで景気は緩やかに回復し、個人消費や雇用情勢には持ち直しの傾向もみられ、生産活動は緩やかに拡大しつつあります。また、企業の設備投資は増加基調にあり、生産は高水準で推移しております。

一方で、世界経済は食料や資源価格の高騰、ロシアによるウクライナ侵攻等に起因する供給制約、労働需給の逼迫などを背景にインフレ圧力が高まり、各国中央銀行は急激な利上げを余儀なくされ、足もとでは金融システムにも影響が及ぶなど、不安定な状態が続いております。国内においても円安や物価上昇に伴い金融緩和政策の修正が見込まれるなど、国内外の経済情勢は一層不安定さが増しており、その影響は県内経済にも波及することが予想されます。

当金庫の営業地域においては、少子高齢化や都市部への人口流出、経営者の高齢化や後継者問題、人手不足といった慢性的な課題が山積しているうえ、長引くコロナ禍は、社会の仕組みや人々の生活様式にも大きな影響をもたらし、経済活動や消費行動も多様化、細分化が進んでおり、業種を問わず新常態への対応が急務となっております。

このような中、当金庫の令和5年3月期の業績につきましては、会員数24,092名、預金積金214,759百万円、貸出金105,897百万円となりました。収益につきましては、業務純益508百万円を確保するとともに、当期純利益は360百万円を計上いたしました。また、経営の健全性の指標である自己資本比率につきましても、国内基準である4.00%を上回る9.93%となっております。

さて、当金庫は本年12月に創立100周年を迎えます。これまでの地域の皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げますとともに、次の時代に繋ぐための起点となる重要な年であります。中期経営計画の名称である「つなぐ」には、金庫の歴史を繋ぐという意味を込めており、現状に安住することなく、既成概念に捉われない発想で、新たなことに積極的に挑戦し、新たな時代を築いていく所存でございます。今後も地域経済及び地域のお取引先を守るために、環境や時代の変化に柔軟に対応し、地域やお取引先のニーズに適切に応え、しっかりとしたガバナンスのもと地域経済の持続的発展に鋭意取り組んでいく方針であります。

これからも「中央しんきん」は、皆様に寄り添い、ともに歩む金融機関として地域に貢献して参りますので、引き続き変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年7月

